



10年ほど前から、土木業界では担い手確保の対策として女性を積極的に採用。そこで働く女性のことを「ドボジョ(土木女子)」と呼んだ。TVで見たドボジョの姿に魅せられ技術職を選んだ河野麻耶さん。九州地整に入局して6年、社会インフラを支える仕事は奥深く、幅広い知識を積む必要があると気を引き締める。これからの河野さんの目標を伺った。

●技術職を選んだきっかけ

幼い頃から橋長の長い橋梁を眺める事が好きでした。勉強に疲れたときは息抜きに、地元から距離のある荒津大橋へ足を運んだこともあり。それだけ橋が身近な存在だったので、どのような技術が使われているのか、誰が携わっているのかなど、モノ作りに興味はありました。

ただ、技術職を意識したのは、高校3年生の時に「ドボジョ」の存在を知ったことです。メディアで注目されるドボジョの姿はかつこよかった。そのときに将来は土木の道と決めました。就職活動をしていくうちに、橋梁だけでなくトンネルやバイパスなど大規模な仕事携われる整備局を知り、志望しました。

●現場の魅力や責務

整備局の仕事は多岐にわたり、「九州の土台」をつくるスケールの大きなものから、身近な生活を支える仕事まで、さまざまです。設計・工事・メンテナンスと一連の作業に携わることは、幅広い知識も必要になり、つねに勉強が必要です。日常の安全・安心を守る、やりがい・責任感が大きい仕事だと感じています。

●仕事のこだわりやポリシー

一人で抱え込まず、何か分からないことがあれば上司や周りに相談することです。当初は、調べることや時間をかけて答えを出すようにしていましたが、勤務年数が上がると仕事量も増え、一つの業務にかけられる時間も少なくなってきました。自分なりに調べることも大事ですが、現場が動いている場合、時間をかけた分だけ業務に支障が出ることを学びました。自分の考えを持ったうえで積極的に上司や周りの方に相談し、できるだけ早く解決するよう心がけています。

担い手シリーズ32

# 憧れの土木業界で九州の土台を作り支える喜び

河野 麻耶 入局6年目(交通対策課)  
国土交通省 九州地方整備局 道路部



●印象的な仕事

入省3〜4年目に携わった宮崎県内にある橋梁の耐震補強工事です。管理系は、改築工事のようなスケールの大きな仕事はできませんが、工事期間が1〜2年の現場が多いため、工事完成まで携われることが大きな魅力です。

この現場は、宮崎市内でもとくに交通量が多く、橋長の長い橋梁でした。複数の業者が同時に施工に入るため、工事前だけではなく工事中も協議や調整事が多く、非出水期内の限られた工期の中で、安全かつ確実に工事を終えるにはどうすれば良いか、コンサルや施工業者の方と何度も打合せを行い苦労した現場でした。その分、工事が完成した時には達成感でいっぱいだったのを、今でも覚えています。

●今後の目標

整備局では、基礎的なものから専門的な分野まで、1年を通してさまざまな研修が実施されています。スキルアップの機会はあるものの、日々の業務を優先していたため、今までは参加できませんでした。自分自身のためにも、今後は仕事のプライオリティを見直して道路だけでなく、防災危機管理関係や河川の研修にも参加し、幅広く知識を吸収したいと考えています。結果的にそれが仕事の効率化にもつながると思います。



河野 麻耶 (かわの まや)  
福岡県出身。福岡大学社会デザイン工学科卒業。平成29年4月国土交通省九州地方整備局入局

国土交通省九州地方整備局  
〒812-0013 福岡市博多区駅東2-10-7  
TEL. 092-471-6331 FAX. 092-476-3481

<https://www.qsr.mlit.go.jp>